
けいおんデイズ！

つばさ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

けいおんデイズ！

【コード】

N9811X

【作者名】

つばさ

【あらすじ】

軽音部とその近辺の人たちの日常をふわつと描く、ふわつとしたSS。ふわつ。

会話文のみで構成することが身上的作品なので、「私は小説読みに来てるんだからねっ！SSとかそもそもお呼びじゃないんだからねっ！」という方はご注意いただきたく。

第01話 「いらいら！」（前書き）

空想は僕の翼、ということではさです。

ノリとテンションと会話文だけで「けいおん！」をやってみようというこの作品。

キャラのぶれも結構あると思いますので、「漣はこんなこと言わないもん！もーん！」とか「律ちゃんはこんな子じゃないやいやい！」という方にはあらかじめごめんなさい。

うちの漣ちゃん律ちゃんはこんなです。

第01話 「いらいら！」

「え？なんだこのタイトル……」

「何って遷、『けいおんデイズ！』の記念すべき第一話のタイトルに決まってるだろ？」

「いやいやいや！全然記念できないよ！いきなり人間関係の不和がちらついてとてもじゃないけど楽しめる雰囲気じゃないよ！何考えてるんだ律っ！」

「な、なんだよ、そんなに怒ることないだろ……。まあ落ち着けよ遷、あたしも理由があつてこんなこと言ってるんだから」

「む……。そう、なのか？」

「ああもちろんさ！遷、こう考えてみるよ！第一話からこんなタイトルだったら……。インパクトあるだろ？」

「うわあああ！浅い！一瞬過ぎっただけど『それはないか（笑）』って切った発想を更に下回られた！浅すぎる！」

「発想の勝利だよなあ」

「ものすごい使い古されてるよ！先人達の手あかでべたべただから……はあ。少しは真面目に考えろっ！」

「ちえー。はいはい、すいませんでしたー」

「まったく……。仕方ない、今からでも第一話に相應しいタイトルを考えるぞ？」

「はいはいはい！」

「もう思い付いたのか？速いな……」

「第一話『大菩薩峠！』」

「お題聞いてた！？百人中の何人が分かるんだよ！どんだけ間口の狭い第一話！？『けいおんデイズ！』なんだからせめて現代なのは分かって！」

「第一話『怪物くん！』」

「別ジャンル！確かに現代だけど！一応タイトルに『けいおん』って銘打っちゃってるからその辺は自ずと絞られてくるだろ！そもそも高校の軽音楽部に怪物って設定詰め込みすぎだからな！まずぐだぐだになるからな！」

「第一話『二人のNANA』」

「違う…そうだけど違う……！確かにバンドものだけでもっとガールズでポップな内容だよ！ブラストと放課後ティータイムは確実に並び立たないから！あとついに『！』マークが消えたな！」

「んー、難しいなあ……」

「そんなに悩むことじゃないだろ？無理にひねらず『始まり！』とかそついつのでいいんだよ」

「ああもつー！じゃあどつしろってんだよ！」

「おお……。凄いな、そのテンションで無視か」

「もついい帰るー！イラストとするなあ！」

……………。

「ん」

「ん」

「『.-.5555』
..... !

第01話 「いらいら！」（後書き）

《ネタ解説》

・ネタ解説>自分の作品を、「ここがこういう風に面白いんだぜ！」と説明すること。とても恥ずかしい作業である。

・大菩薩峠>中里介山の手になる、超々巨編。30年くらい執筆され、作者の死により未完のまま今に至る。名作。あまりに長いので読む際には今からONE PIECEデビューするんだぜ！の数倍の覚悟が必要。

・怪物くん>映画化したらしい。

・二人のNANA>「NANA」矢沢あい より。勝手に作ったタイトルで、こういうタイトルの話が本当にあつたかは微妙。ブラストは劇中のバンドの名前で、メンバー全員生き方がロックンロールすぎてけいおんには死ぬほど馴染まない。

更新は基本的に第2・第4土曜日を予定していますが、5話めまでは毎週更新で。

慢性的にネタが不足してるので、リクエスト的なものは随時募集しています。

では「けいおんデイズ!」、よろしく願いいたします。

第02話 「初登場！」

「皆さんこんにちはっ！ギターとボーカル担当、平沢唯です！」

「皆さんこんにちは、キーボード担当の琴吹紬です」

「いやー、ついに前回私達の出番がなかったねえ」

「なかなかお声がかからなかったからハラハラしたわ。ためてためてドーン、という展開を予想して普通に肩透かしを喰らったお客さんも多かったんじゃないかしら？　かく言う私もその一人よ」

「む、ムギちゃん……」

「？　なあに？」

「お腹すいたぁー……」

「あらあら、つぶぶ。今お茶の用意をするから、ちょっと待っててね」

「わっしょーい！」

「うーっす」

「あ、律ちゃんだ！うーっす！」

「あら律ちゃん、こんにちは」

「おう、唯にムギ。早かったんだな」

「あれ？湊ちゃんは？」

「いや、さつきまで一緒だったんだけどさー。なんか『今日はもう疲れた…』って帰っちゃったんだよ」

「まあ……」

「湊ちゃん、体調でも悪いのかなあ……」

「う、うーん。まあ、大丈夫そうだったぞ？（まさかっつこみのオ
ーバーワークとは言えないしな……）」

「さ、お茶が入ったわよ」

「わっしょーい！」

「（わっしょい…？）とところで、二人で何の話をしてたんだ？ 声が外の階段まで聞こえてたけど」

「え、ええ……（前回出番が無かったことについて話していたなんて、正直に言ったらきつと律ちゃんに気をつかわせちゃうわね……）」

「ん、どうしたんだ？もし話しづらいことだったら無理しなくても」

「そ、そんなことないの！ たっ…ただちょっと律ちゃんと澪ちゃんのカップリングが社会にもたらす有用性について語っていただけよ！」

「ええー！ カッ……ええー！ 知らない単語はあるけどなんか嫌な感じだけはすげー伝わった！ でも多分そこに有用性…？ はないぞ！ なんか不毛な気がする！ 生物学的に！」

「そ、そこは風が吹けば桶屋が儲かる的な一連の流れが私と唯ちゃんの間でもちゃんとシミュレートされたわ!」

「外に聞こえる声でそんなこと話をしてたのか!? (くっ……っ つこみ所が多すぎてあたしじゃさばききれん!) ……ゆ、唯! 今の話は本当か!?!」

「ねえねえ、そんなことよりマサチューセッツ工科大学じゃんけん略して”MITJ”しようよー」

「そんなことより!? え、そんなことより!? つか、え? いま何じゃんけんって言った!? (お前もボケるのかよ勘弁してくれー!)」

「マサチューセッツ工科大学じゃんけんだよー。やり方はね、
『マッサちゅーうせつつ せつつせつつせつつ』
……の歌にあわせて『せつつ』の度にじゃんけんして、四回のうち多く勝った方の勝利!」

「聞いてもないのに超 弩級の平沢ゾーン来たあああ!」

「律ちゃん聞いて! 確かに律濤はジャスティスよ? だけど濤律の孕むそこはかとなない背徳感こそがガチ! いわゆる一つの第七天国なの

！そもそも律ちゃんは澪ちゃんに淡い恋心を抱いていて

「じゃあ行くよー！せーの、マッサちゅーっせっつ」

「（澪、ごめん……。つつこみってすごい重労働だったんだな。これからはもっとお前のことを考えてボケるよ……）」

「せっつせっつせっつ……律ちゃん！ちゃんとやってよー！」

「律ちゃん私の話聞いてる！？」

「もういやあああー！」

第02話 「初登場！」（後書き）

せつつせつつせつつ！ とくくとくくとく しばたです。
次回はまた一週間後。

第03話 「今日のケーキ！」（前書き）

ある日の朝、軽音部の部室で。

第03話 「今日のケーキ！」

「ん〜！……つと、ふう。今日は良い天気だな」

「漣ちゃんおはよう」

「ああムギか、おはよう。朝から部室に来るなんてどうしたんだ？」

「うふふ、今日はケーキを持ってきたから部室で冷やしておくのよ。漣ちゃんはどうしたの？」

「ああ、私はベースを置きに来たんだよ。……ちなみに今日はどんなケーキを持って来てくれたんだ？」

「ええ、今日は『サン・タン・ベルシユ』っていうお店なんだけど……一風変わったケーキを作るので有名なの。ちょっと開けてみるわね？」

「ああ、見せてくれ！（変わったケーキか……野菜とかお茶とかのケーキかな？楽しみだな！）」

「まずは基本のチョコレートケーキ」

「おお、美味しそうだな！」

「次に二つ目、『焼きそばケーキ』」

「焼き……え！？ 焼きそば！？ ケーキ……焼きそば！？」

「ご店主が焼きそばパンの美味しさから着想を得て開発したケーキ
なんだけど……二番煎じだし、ちよつと柳の下のどじょうって感じ
がするわよね」

「いやいやいやいや！ご店主柳の下どころか松の下辺りにスタンバ
っちゃってるよ！どじょうどころかフナすら捕れないよ！焼きそば
パンから着想を得るのは良いけどそれをケーキに対してまるっと活
かしちゃったらご覧の通りのスポンジの上にソース焼きそばがぼそ
ぼそ乗ってる大惨事が当然起こるから！」

「次は『揚げケーキ』ね」

「なんで揚げたの！？」

「これはご店主が揚げたご焼きから着想を得た一品で、ショートケ

「キを熱した油に投じてみたら不恰好なドーナツみたいになったという経緯があるの〜」

「そこは流力的にも揚げパンが良かったよな！ていうかショートケーキさんがツ！そもそも揚げる洋菓子には既にドーナツという完成された形があるんだからもうケーキを揚げるとか良かったんだよ！そして『経緯』って言ったけど完成形として今私の目の前にあるこれは明らかに不恰好なドーナツ以外の何物でもないぞ！？」

「最後に『アボカド…』」

「良かった、普通に変わったケーキもあるのか……」

「ジュースケーキ』ね」

「しばったああ！アボカド一回ジュースにしちゃった！なんで一手間加えるんだよアボカドそのまま乗せてくれよ！」

「これはショートケーキにアボカドジュースをだばだばとかけたものなの」

「ショートケーキさあああん！」

「このケーキはご店主が近時のアボカドブームから着想を得て開発したんだけど、あまりうまくいなくて途中で投げ出したのよ」

「その着想シリーズもうやめて！ことごとく失敗してるから！揚げケーキもだけど明らかに開発途中のしかも目処が全く立ってないもので平然と商売してないか!？」

「今日のお菓子はこんな感じよ。放課後は楽しみにしててね、澁ちゃん」

「あ、ああ……（まともなケーキ率が25%……今日は早めに帰ろう……）」

第03話 「今日のケーキ！」（後書き）

ショートケーキさんッ！ ということで、つばさです。

だいたい30人くらいと目される読者の皆さま、投稿が一日遅れて
しまつてすみません。

来週はちゃんとやるんだからねっ！

……だからほんとすいませんでした！

ではまた来週です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9811x/>

けいおんデイズ！

2011年11月13日13時52分発行